



オンライン例会，ハイブリッド例会を開催しませんか

新型コロナウイルス（以下「コロナ」）の感染拡大が止まりません。感染者の確認は全都道府県に及び、大都市圏では毎日のように「過去最大の感染者数を記録」と報道されています。そのような中、しばらく例会を休止していたロータリークラブも、6月の緊急事態宣言の解除を受けて、ほとんどのクラブが例会を再開したようですが、どのような形で再開されたのでしょうか。

国際ロータリーは、コロナによるパンデミックを受けて、地区およびロータリークラブとローターアクトクラブが、会合やイベントをオンラインで行うか、中止または延期とすることを推奨しました。そこで、多くの地区やクラブが予定されていた会合のいくつかをオンラインで開催しました。それらの経験を通じ、今やオンラインによる会合の開催は、「特別なこと」ではなく、「選択肢の一つ」になりつつあるように思います。しかしその目的は情報の伝達や意見交換程度にとどまり、クラブが例会そのものをオンライン形式で開催したという例はまだまだ少ないようです。

私の個人的な経験ですが、関係しているいくつかの団体のうち、理事会などをオンラインで開催したところもあれば、机の配置などを工夫してあくまでも対面式の会合にこだわったところと様々でした。これはどうやらそれぞれの法人の監督官庁の指導によるものと推測されます。今、公益法人では、「出席者間の協議と意見交換が自由にでき、相手方の反応がよく分かるようになっている場合、すなわち、各出席者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みになっており、出席者が一堂に会するのと同等の相互に十分な議論が行うことができるという環境」であれば理事会等をWEB会議などのオンライン形式で開催してもよいという考え方が一般的なようです。

この「出席者間の協議と意見交換が自由にでき、相手方の反応がよく分かるようになっている」という考え方は、ロータリークラブの例会にも当てはまりませんか。互いの映像を見ながら、画面を通して直接会話することができれば、顔と顔を合わせての会合に劣らない交流を図ることができるのではないのでしょうか。

標準ロータリークラブ定款第7条（会合）第1節（例会）(b)には「会合の方法。例会は、直接顔を合わせるか、電話で、オンラインで、またはオンラインの参加型の活動を通じて開催することができる。」と規定されています。クラブ細則でオンライン例会を明示的に禁止していない限り、どのクラブでも理事会の決定で次週の例会からオンライン形式を採用することは可能であるはずですが、これまでの慣習を重んじて対面式にこだわっているクラブが多いように見えます。全員がオンラインで出席するのは寂しいと思われるなら、対面式とオンライン形式を併用した「ハイブリッド例会」はどうでしょうか。実際に出席した会員と、オンラインで出席した会員が画面を通して会話をしたり、一緒に卓話を聞いたりすることができる例会です。それでもまだ会員の中に抵抗があるようでしたら、クラブ細則で、会員がオンラインで例会に出席する回数に上限を設けるのも一案でしょう。

コロナによる影響をマイナスばかりではなくプラスに転じるように、オンライン例会に挑戦し、あなたのクラブの活性化のきっかけにしましょう。

第3地域 ロータリーコーディネーター補佐 滝澤 功治（神戸須磨RC）



ご挨拶

本年度より第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐を拝命致しました第2670地区（新居浜ロータリークラブ）の桑原征一と申します。浅学非才の身ではありますが、関係各位の皆様方のご指導を頂きながら、与えられた責務を全うしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

さて、まずは昨年度の地区ガバナー、各委員長、又、各クラブの会長、幹事、委員長他、全ての皆様方に感謝申し上げます。一年間本当にご苦労様でした。新型コロナの感染拡大の中、皆様方が計画された多くの活動が中止や延期となった事と思えます。多くの人の想いを込めた事業を中止せざるをえなかった無念と失望は如何ばかりかと、拝察いたします。皆様方のロータリーに対する情熱や想いは事業が中止されたからといって、けっして消えるものではありません。この体験を次の方々に引き継いで、更に活発なロータリー活動につながるよう、ご尽力をお願い申し上げます。

また、本年度の地区、クラブの役員の皆様方、日本全国、コロナの大きな影響を受けている大変な時期に地区ならびにクラブの運営を担当される事、誠にご苦労様でございます。地区協議会やその他の会合を開催出来なかった地区もあろうかと思えます。自らの想い、情熱を直接肉声で届けることが出来ず、手探りで、地区または、クラブの運営に当たらざるを得ないもどかしさを感じられていることと思えます。

残念ながら、現在の状況は我々が、対応策を講じなければなりません。今の時期こそ、地区役員、クラブ役員の英知を結集しなければならない時期だと思えます。コロナは何時終息するかわかりません。今この状況のなかでのロータリーの活動の在り方を見直してみたいかがでしょうか。ピンチを变革のチャンスと捉え、あらゆる方策を模索してみたいと思えます。新しいタイプのロータリー活動が生まれてくるかも知れません。考えてみるとワクワクしませんか。クラブ運営や地区運営にWEBを活用することで、地域社会との連携に大きな効果が出るのではないのでしょうか。

ロータリー活動の基本は毎週一回の例会出席にあり、例会での会員同士の親睦が奉仕活動の活力の源泉であると信じております。ただ、それがかなわない時には、別の方策を考えなければなりません。どうか、各地区、各クラブの皆様方には、色々な方策をそれぞれ、検討していただきたいと思えます。それが次の時代のロータリー活動の大きな力の源になると思えます。

今こそ、ロータリーの真の力を発揮する時です。みんなで一緒に頑張りましょう。

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 桑原 征一（新居浜RC）